

2. 事業の概要と成果	
(1) プロジェクト目標の達成度 (今期事業達成目標)	エルメラ県アッサベ郡において、年間を通して安定的な農業活動が実現する。 (指標：対象農民グループ（以下、FG(Farmer Group)）メンバー計 223 人（1 年次終了時のメンバー計 251 人、2 年次終了時のメンバー計 291 人）¹のうち、85%以上が継続的に農業用水設備を利用しながら野菜栽培を行っている。) ● 今期事業達成目標： 2 年次対象地域の 7 集落にて 7 基の農業用水設備を整備し、また同設備の維持管理を担う設備維持管理委員会を設立することで活動の基盤を整える。 2 年次造成組の 7 農民グループを対象に農業用水設備の造成と各種能力強化研修を実施し、1 年次造成組の 5 グループに加えて全 12 農民グループにおける活動の基盤ができた。プロジェクト全体の目標レベルの達成度を 2 年次において定量的に図るのは時期尚早であるが、3 年次事業終了時でのプロジェクト目標の達成に向けた、今期のアウトプットレベルの主な達成事項は以下となる。 ・ 2 年次対象の 7 集落にて、計 164 人(うち女性 76 人)から成る 7 つの農民グループの共同農地に水が供給できるように農業用水設備を造成し、計 787.5 m²(25m x 4.5m x 7FGs)の野菜畑に点滴灌漑を設置した。これら設備によって野菜の通年栽培を可能とする環境が整備できた。 ・ 上記設備が長期的に維持管理されてゆくように、設備を維持するための体制として、維持管理委員会(各グループ 6 名の計 42 名)を設立した。この維持管理委員会メンバーは、農民グループメンバーから選出され、リーダー、書記、会計、オペレーション担当者などで構成されている。また、各維持管理委員会で規定を策定した。 ・ 上記の能力強化研修と併せて、維持管理委員会の定例会合を 1 年次造成組の 5 農民グループは 6 回、2 年次造成組の 7 農民グループは 3 回実施し、農業用水設備のみならず農業全般に関する様々な課題について協議する場を設け、メンバー間での意見集約と合意形成について実地で学ぶ機会を提供した。更に、同定例会合では、農村地域の生活向上に繋がる情報発信やジェンダー平等やジェンダーに基づく暴力予防のための啓発にも取り組み、地域住民にも広く参加を募り、2 年次では延べ 579 人の地域住民が同定例会合に参加した。
(2) 事業内容	2022 年 2 月 14 日から開始し、2023 年 2 月 13 日に了した 2 年次事業では、事業対象地であるアッサベにおいて以下の活動を実施した。 (ア) 農業用水設備(水源保全、貯水タンク、水路と点滴灌漑)の設置 活動 1.1 「農業用水設備の設置場所に関する住民参加型ワークショップ」 2022 年 3 月から 4 月にかけて、対象 7 集落にて其々 3 日間で、農民グループメンバー、各集落のコミュニティリーダー等の参加のもと同ワークショップを開催した。同ワークショップの中で、後述の活動 2.1「維持管理委員会の発足」をワークショップの中で実施した。 ● ワークショップ内容 ・ 維持管理委員会(以下、FMC)の発足： 農民で会議を行い、各 7 農民グループメンバーの中から計 42 名(各 FMC に 6 名)の FMC メンバーが決定された。FMC メンバーの選定にあたっては、メンバーの半分を女性とするクォータ制を導入し、メンバー 42 名のうち 21 名は女性とした。 ・ 農業用水設備の設置場所と利用に関する関係者間の合意形成： 同ワークショップ参加者で集落の災害リスクマップを作成し、土砂崩れや豪雨による道路の寸断等の自然災害のリスクや、住民のアクセスのしやすさなどを考慮して、農業用水設備の設置場所や水源を最終的に決定した。同過程を経て、集落 1 箇所については、害獣のリスクを考慮して、1 年次後半に実施した事前調査で候補地となった場所から、水源および農地を変更することを決めた。 7 農民グループの共同農地の継続利用に関して地主から合意を取り付けるとともに、住民の水利用に関する条件(水量が十分な時期の生活用水利用)、問題発生時の解決方法(維持管理委員会で解決が難しい場合は、集落や村のリーダーが介入する)について、関係者間で合意形成を行った。さらに、農民グループメンバーが中心となり、農業用水設備の造成活動計画、共同農地のフェンス作りや草刈り計画、FMC の定例会合の実施計画をたてた。 <参加者>

参加者は計 303 人で、うち女性は 128 人(参加者全体の 42%)。女性参加者からの発言を促すため、ワークショップは男女別のグループで行い、全体での話し合いにおいても、参加者からの発言が男女で偏りのないよう配慮した。

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/4/7-9	Batumanu	Biliubu	7	7	6	18	38
2	2022/3/14-16	Obulo	Leulara	16	7	11	11	45
3	2022/3/8, 10, 11	Leimea Leten	Raebou	13	10	12	20	55
4	2022/4/4-6	Obulo	Sirui	10	10	11	8	39
5	2022/4/11-13	Leimia Leten	Laku Ubu	8	19	3	14	44
6	2022/3/23-25	Leimia Leten	Buibaro	11	10	11	19	51
7	2022/4/8,9,11	Laubonu	Batuu	5	10	4	12	31
総計				70	73	58	102	303

活動 1.2 農業土木専門家による設備の詳細設計の策定

上述した住民参加型ワークショップでの協議の結果、農地および水源を変更することになった 1 箇所(Batumanu 村落 Batuu 集落)については、農業土木専門家が水源から農地までの測量を再度行い、その地形に合わせ、取水設備の数や大きさ、プラスチックタンクや電気ポンプ使用の有無などの詳細設計をあらためて行い、取水設備の仕様や設置数を当初の計画から変更した(詳細については、2022 年 9 月 5 日付け提出の変更報告書を参照のこと)。

活動 1.3 農民グループを主体とした住民参加型による設備の造成

1) 2 年次造成組(7 集落 7 農民グループ)

2022 年 6 月から 8 月にかけて、水源から 7 つの農民グループの共同農地に水を引き込む設備の造成を進めた。パイプ設営等の工程に外部技術者を投入しつつ、本事業のシニア・テクニカル・オフィサーの監督のもと住民参加型で行い、計 787.5 m²の農地に点滴灌漑を設置した。

造成準備および造成期間を通しての延べ参加者数は 148 名であった。地元大工や、農民グループメンバー以外の地域住民も設備の造成に参加し、造成工事の参加者全体では、農民グループメンバーが 59%、メンバー以外の地域住民が 41%となり、共同農地への農業用水としての用途以外にも生活用水としても貯水タンクの水を広く地域に開放する同設備への地域住民の期待の高さがうかがえた。

2) 1 年次造成組(5 集落 5 農民グループ)

1 年次に既存の野菜栽培地に点滴灌漑設備を敷設した 5 農民グループの共同農地では、更に野菜が栽培できるように 2022 年 5 月から 6 月にかけて 37 名の参加によって、農地を拡大し、各農地 112.5 m²計 562.5 m²に点滴灌漑設備を敷設した。

活動 1.4 農民グループを対象とした乾季の取水及び土壌管理に関する研修

県農業局所属エクステンション・ワーカー・リーダーによる 3 日間の土壌管理に関する研修を 2022 年 8 月に 1 集落で実施した。その後、残りの 6 集落では、8 月から 9 月にかけて、本事業の現地フィールドスタッフが農業水産省の教材を用いて同内容の研修を実施した。1 集落のみ 8 月、9 月に都合がつかず、11 月に研修を実施した。

● 研修実施者

当初、農業水産省園芸普及局から局所属の研修担当の職員を派遣してもらう予定であったが、他の研修で都合がつかないとのことで、県農業局所属エクステンション・ワーカー・リーダーがトレーナーとして実施する運びとなった。

● 研修内容

1 年次同様、3 日間を基本構成とする農業水産省園芸普及局の研修カリキュラムに則り、農民グループメンバーの理解速度も考慮して、以下の構成で研修を実施した。

- ・1 日目(座学研修)：園芸農業の基礎(野菜の種類、単一作物と輪作について、種子の選び方、土壌準備、苗の作り方と移植、水管理)
堆肥の作り方

¹ 申請時のメンバー数 223 人、1 年次終了時のメンバー数 251 人、2 年次終了時のメンバー数 291 人

有機液体肥料の作り方

有機農薬の作り方（1 年次において野菜の害虫被害の事例が多くあったため、2 年次から新たに研修に加えることとした。）

- ・2 日目(実地研修)：有機液体肥料と、有機農薬作りの実地研修
- ・3 日目(実地研修)：堆肥作りの実地研修

後日、苗床作りや、畝の作り方、畑の周りの排水路の作り方などの作業も指導した。

研修で学んだ知識を実践できるように、研修後も定期的にフィールドスタッフが農民グループを訪問し、モニタリングとフォローアップ指導を継続した。

同研修と併せて、農民グループごとの関心や市場での販売可能性を考慮し多様な種子を配布した。トマト、青梗菜、ニガウリ、キャベツ、トウガラシ、ナス、ニンニク、レタス、ロングビーンズ、高菜、ホウレンソウ、空心菜、玉ねぎ、きゅうり、スウィートコーン、パパイアは、自家消費と地元の市場や学校給食への販売用に、パプリカ、カリフラワー、アスパラガス、セロリ、オクラ、ズッキーニ、白菜、バジル、コリアンダーなどは、事業終了後を見据え、ディリ等都市部の市場での販売機会を模索するため、農民グループの共同農地で試験的に栽培した。

また、栽培の過程においては、鍬、鋤、熊手などの農具を提供し、苗の作り方から、苗の移植の仕方、施肥のタイミングなどの指導をきめ細かく行った。さらに、昨年度課題となっていた、病害虫対策を強化するため、有機農薬の作り方を指導するだけでなく、虫取りシートを利用した対策なども併せて指導した。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/8/8-10	Batumanu	Batuu	4	4	7	5	20
2	2022/8/22-24	Obulo	Biliubu	5	3	2	10	20
3	2022/8/3-5	Leimea Leten	Buibaro	9	5	5	8	27
4	2022/11/29-30	Obulo	Lacu Ubu	2	7	1	4	14
5	2022/8/15-17	Leimia Leten	Leulara	11	2	4	5	22
6	2022/8/18-20	Leimia Leten	Raebou	6	9	3	3	21
7	2022/9/5-7	Laubonu	Sirui	7	3	1	1	12
	総計			44	33	23	36	136

(イ) 農業用水設備の維持管理

活動 2.1 対象農民グループ、農業普及員およびコミュニティ(村落または集落村)の 3 者合同の設備維持管理委員会の発足

1 年次同様、対象 7 集落において、上記の活動 1.1 の中で実施した。設備維持管理委員会は、クォータ制を採用し、6 人の委員会メンバーの男女の比率が 50% ずつになるようにメンバーを選出した。委員会は、リーダー、書記、会計が各 1 名ずつ、設備オペレーターが 3 名で構成されている。

活動 2.2 設備維持管理委員会を対象とした設備の維持管理に関する研修(保守修繕集中研修)/規定の策定

2.2 3) 保守修繕集中研修

● 研修実施者

2022 年 7 月に、点滴灌漑用資材の販売業者所属の技術者が 1 集落において、本事業のシニア・テクニカル・オフィサーと共に研修を開催した。その後、残りの集落においては、2022 年 7 月から 8 月にかけて、シニア・テクニカル・オフィサーが同研修を実施した。2 日間の集中研修後しばらくして、フォローアップの必要性が認められた。このため、ビニールハウスを設置するために(自己資金で設置)、販売業者所属の技術者が 11 月 6 日から 27 日にかけて現地を訪問した際には、同技術者が追加のフォローアップ指導を行った。

1 集落(Obulo 村落 Laku Ubu 集落)のみ都合がつかず 11 月に 1 日の研修時間を増やして全ての研修内容を網羅して実施した。

● 研修内容：

研修は大きく点滴灌漑設備の使い方と保守修繕の 2 項目から成り、講義と実技形式で行われた。最初に点滴灌漑設備を実際に農地に敷設しながら使い方について学び、資材の種類や、必要な水量の計算方法、点滴灌漑を使った施肥の方法等について学んだ。保守修繕について

は、パイプやパイプの接続部分が破損した場合の修繕方法、フィルターや点滴灌漑ホースの洗浄方法や点滴灌漑を使用していない時の保管方法等について学んだ。

<参加者>

以下の日程は、2 日間の保守修繕集中研修に加え、最終日 3 日目の規定の策定を含む。

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/7/25-27	Batumanu	Biliubu	5	3	3	8	19
2	2022/7/14-16	Obulo	Leulara	13	4	2	4	23
3	2022/7/18-20	Leimea Leten	Raebou	10	5	4	5	24
4	2022/8/25-27	Obulo	Sirui	7	6	10	5	28
5	2022/11/16-17	Leimia Leten	Laku Ubu	2	8	0	4	14
6	2022/7/11-13	Leimia Leten	Buibaro	3	6	3	9	21
7	2022/7/21-23	Laubonu	Batuu	4	4	5	3	16
総計				44	36	27	38	145

2.2 4)-1 設備維持管理委員会の規定策定 - 規定の策定

保守修繕集中研修最終日に、各 7 農民グループで規定を策定した。策定の過程で、メンバーの具体的な役割分担についても話し合っ

て決めた。
規定に盛り込まれた内容は、1 年次に 5 グループで策定した内容と同じとなった。規定のうち「メンバー全員が互いを尊重し、意見を言うことができる。」については、規定の策定に先立ち開催したジェンダー分析ワークショップでの気づきを反映したもので、女性が意思決定に参加しにくい、意見を言いにくいという現状を踏まえ、規定に含めることになった。

- 設備維持管理委員会の役割（点滴灌漑設備の洗浄、点滴灌漑設備の開閉時間、点滴灌漑設備を用いての施肥スケジュール、定期的な保守修繕活動を行うことなど。）
 - メンバー全員が責任感を持って活動に参加する。
 - メンバー全員が互いを尊重し、意見を言うことができる。
 - グループで決めて定例会合を開催することができる。
 - 会計担当者が責任を持って集金する。
 - グループのアカウンタビリティと透明性を高める。
- また、設備の維持管理に関するだけでなく、農民グループ全体の活動についても、いくつかの項目が決められた。
- 野菜栽培に関しては、作付けや収穫時には全員参加する。
 - 病害虫の問題はないか、点滴灌漑設備などに問題はないか等、畑を見回り、野菜の生育状況を確認し、必要に応じて害虫駆除等を行う。
 - グループで野菜の販売について決める。

<参加者>参加者は上述の保守修繕集中研修と同じ。

2.2 4)-2:設備維持管理委員会の規定策定 - ジェンダー分析事前ワークショップ

● 1 回目ジェンダー分析事前ワークショップ

上述した規定にジェンダー平等の視点を取り入れるため、策定に先立ち、2 年次から活動を開始した 7 集落において、ジェンダー分析ワークショップを開催した。性別(生物学的な性別)とジェンダー(社会的な男女の役割や期待)の違いについて学んだ後、24 時間活動時計(男女の 1 日の時間の使い方)、ジェンダー・ボックス(ジェンダー規範)やパイルソーティング(男女の役割と意思決定)等の分析ツールを用いて、女性に負担がかたよっている現状等についてグループで話し合った。同ワークショップでは、伝統的に女性の仕事と考えられている家事や育児だけではなく、畑仕事や家畜の世話などは男女ともに担っているため、結果的に女性の方が男性よりも多くの役割を担っていることが可視化された。一方で女性の役割の多さにもかかわらず、家庭や地域での意思決定については男性のみが担っている現状も明らかになった。男女で分担できる活動や公平な役割分担について様々な気づきが男女ともにあり、男性参加者からはいくつかの家事について男性も担うとの提案があがった。この現状を踏まえ、メンバー間の平等な役割分担や男女ともに意見を尊重するといった事項が規定に反映されることになった。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/4/28	Batumanu	Biliubu	6	4	4	11	25
2	2022/4/26	Obulo	Leulara	12	7	0	2	21
3	2022/4/25	Leimea Leten	Raebou	15	8	3	5	31
4	2022/5/5	Obulo	Sirui	5	5	4	9	23
5	2022/4/27	Leimia Leten	Laku Ubu	5	12	2	7	26
6	2022/4/13	Leimia Leten	Buibaro	8	9	4	13	34
7	2022/4/22	Laubonu	Batuu	6	9	4	8	27
総計				57	54	21	55	187

● 2 回目ジェンダー分析事前ワークショップ

1 回目ジェンダー分析ワークショップに引き続き、ジェンダー指標の追加情報収集のため、7 集落のうち 5 集落において、現地事務所のジェンダー専門家と本事業のシニア・プロジェクト・オフィサーがファシリテーターとなり、フォーカス・グループ・ディスカッションを行った。具体的には、日常行う農作業や生活全般に関する活動と意思決定を主に男女のどちらが行うかカードを仕分けして可視化して考えるパイルソーティング活動、ジェンダーと関連した社会規範や慣習に関する短い文章をファシリテーターが読み上げ、参加者がそれぞれの意見を述べるポート・ウィズ・ユア・フィートという活動、会合などでの男女の意思決定への参加の度合いを測るパーティシペーション・ラダーという活動を行った。ワークショップを通して、対象地域では、男女共に農作業を行いコーヒー豆の収穫などで収入を得たりしているが、家事や子育ては主に女性が担っていること、家計の意思決定については、農作業や農作物の販売に関しては男女共に関わっているが、食料品や日用品の購入に関しては女性が行うことが多く、高価な物の購入は男性が決めることが多いことがわかった。また、会合などは男性が参加して発言することが多く、女性の参加の機会は限られているが、本事業の研修やワークショップを通して、自信を持って会合に参加して発言できるようになったという女性の声も聞かれた。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/12/6	Obulo	Leulara	2	5	2	5	14
2	2022/12/5	Leimea Leten	Raebou	9	2	2	5	18
3	2022/12/7	Obulo	Sirui	3	6	1	1	11
4	2022/12/6	Leimia Leten	Buibaro	4	1	3	4	12
5	2022/12/7	Laubonu	Batuu	1	5	5	6	17
総計				19	19	13	21	72

活動 2.3 設備維持管理委員会の定例会合の実施

定例会合を計 9 回開催した。定例会合の場を利用して、農業用水設備や農業全般に関するトピックだけでなく、地域住民の生活向上に繋がる情報発信にも力を入れ、ジェンダー平等やジェンダーに基づく暴力の予防のための啓発にも取り組んだ。

定例会合には、延べ 1,129 人が参加し、参加者全体に地域住民が占める割合は 51% (579 人) で、1 年次と比較しても伸びている。農民グループ以外の地域住民にも裨益が及ぶように、農業用水を貯める貯水タンクの水を生活用水としても一部開放しているが、定例会合についても自分たちの生活に役立つと地域住民が感じ参加の動機付けとなっていることがうかがえる。

1) 1 年次組：5 集落 5 グループ

	議題	参加者
1 回目定例会合 (2022 年 3 月、4 月)	<農業> ・地元で入手できる材料を用いた有機農薬の作り方。 ・農民グループの 2 か月間の活動計画の策定。	・女性：50 名 ・男性：70 名 - 計：120 名

		<ジェンダー> ・農業活動における男女の役割分担と意思決定についての分析と啓発。	
	2 回目定例会合 (2022 年 6 月)	<農業> ・農業用水設備の修繕維持に関するブレインストーミングと規定の読み込み。 <ジェンダー> ・But-Why という手法を用いた「なぜ女性はリーダーにならないのか」というテーマでの話し合い。	・女性：61 名 ・男性：65 名 - 計：126 名
	3 回目定例会合 (2022 年 7 月、8 月)	<農業> ・鶏糞から液肥を作る方法について。 <ジェンダー> ・But-Why という手法を用いた「なぜ女性は男性よりも後から食事をするのか」というテーマでの話し合い。	・女性：61 名 ・男性：54 名 - 計：115 名
	4 回目定例会合 (2022 年 11 月、12 月)	<農業> ・野菜の栽培カレンダー、輪作、雨季と乾季のそれぞれに適した野菜について。 <ジェンダー> ・パイルソーティングという手法を用いた「家事は誰が行うか、意思決定は誰が行うか」というテーマでの話し合い。	・女性：46 名 ・男性：35 名 - 計：81 名
	5 回目定例会合 (2023 年 1 月) *フォローアップ計画策定の住民参加型ワークショップに併せて開催、	<農業> ・農民グループのアカウンタビリティ向上の必要性についての話し合い。 <ジェンダー> ・ジェンダーに基づく暴力についての啓発。	・女性：87 名 ・男性：74 名 - 計：161 名
	6 回目定例会合 (2023 年 2 月) *振り返り会議に併せて開催	各農民グループが抱える問題と解決策についての話し合い。	・女性：34 名 ・男性：29 名 - 計：63 名
2) 2 年次組：7 集落 7 グループ			
		議題	参加者
	1 回目定例会合 (2022 年 5 月)	<農業> ・ソーシャルマッピングを用いた野菜の販売機会についての話し合い。 <ジェンダー> ・男女の社会規範とそれを変えてゆくための取り組みについての話し合い。	・女性：72 名 ・男性：97 名 - 計：169 名
	2 回目定例会合 (2022 年 8 月、9 月)	<農業> ・栄養についての情報提供。 ・グループの活動の透明性について。 <ジェンダー> ・ジェンダー・ボックスという手法を用いた、男女が期待されている役割についての話し合い。 ・女性が農民グループ活動に参加しやすい環境作りについての話し合い。	・女性：79 名 ・男性：96 名 - 計：175 名
	3 回目定例会合 (2022 年 11 月)	<農業> ・野菜の栽培カレンダー、輪作、雨季と乾季のそれぞれに適した野菜について。 <ジェンダー> ・But-Why という手法を用いた「女性の土地の所有	・女性：54 名 ・男性：65 名 - 計：119 名

が少ないのはなぜか」、「男性がなぜ家事をしないのか」というテーマでの話し合い。

活動 2.4 女性農民メンバーを対象としたパブリックスピーキング研修

2 年次から支援を開始した 7 集落 7 グループを対象に、9 月から 11 月にかけて、各集落にて 2 日間の研修を本事業のシニア・プロジェクト・オフィサーが担い実施した。同研修は 1 年次同様に、女性の公の場での発言や意思決定の場に女性が参画することの男性側の理解が深まる効果が期待できることから、男性メンバーも参加した。

研修では最初にトピックごとに講義を行い、続いて男女別のグループワークで話し合った。具体的には、1 日目に、リーダーとリーダーシップの違い、リーダーシップのタイプ、グループやコミュニティをリードするのに適したリーダーシップ、力と能力というトピックで講義を行い、講義後、なぜリーダーになる女性が少ないのかについてグループで話し合った。2 日目には、パブリックスピーキングとコミュニケーション、言語的・非言語的コミュニケーションの役割、グループや社会にとって効果的なコミュニケーション・ストラテジーについて講義を行い、講義後、なぜ人前で話す女性が少ないのかについてグループで話し合った。最後に、人前で話す技術について講義した後、男女ともに人前で話す練習を行った。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/9/23-24	Batumanu	Biliubu	3	1	13	7	24
2	2022/9/19-20	Obulo	Leulara	14	6	12	4	36
3	2022/11/3-4	Leimea Leten	Raebou	6	2	5	7	20
4	2022/10/24-25	Obulo	Sirui	3	4	11	8	26
5	2022/9/21-22	Leimia Leten	Laku Ubu	5	9	6	4	24
6	2022/10/26-27	Leimia Leten	Buibaro	7	4	7	10	28
7	2022/11/5-6	Laubonu	Batuu	5	6	12	7	30
	総計			43	32	66	47	188

活動 2.5 修繕費の集金と管理に関する研修

2022 年 9 月に、各 7 農民グループにて其々 2 日間の集中基礎研修と、その後の各グループ 2 回 (各回 1 日) のモニタリングとフォローアップ研修を現地 NGO「Belun」が担い実施した。

● 2 日間の集中基礎研修

1 年次で「Belun」が策定した研修マニュアルを元に、資金管理の原則、記帳の仕方、予算作りなど、農民グループの運営に不可欠な会計の知識と資金管理方法に特化して講義と実演を行った。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/9/19,20	Batumanu	Biliubu	4	3	2	3	12
2	2022/9/21,22	Obulo	Leulara	5	2	2	2	11
3	2022/9/14,15	Leimea Leten	Raebou	6	2	0	2	10
4	2022/9/27, 2022/10/25	Obulo	Sirui	3	3	0	2	8
5	2022/9/29,30	Leimia Leten	Laku Ubu	3	3	4	3	13
6	2022/9/16,17	Leimia Leten	Buibaro	5	4	2	4	15
7	2022/9/23,24	Laubonu	Batuu	3	6	3	2	14
	総計			29	23	13	18	83

● 集中基礎研修の後のモニタリングとフォローアップ研修

<フォローアップ研修 1 回目>

研修参加者はすでに基礎的な知識は持っているが、記帳が正確にできていないことがわ

かったので、帳簿に収入と支出を正しく記入する練習を行い、さらに、グループの予算案の作成と報告書の作成の仕方を復習した。

<参加者>

No	日程	村落(Suco)	集落(Aldeia)	参加者		
				女性	男性	合計
1	2022/11/16	Laubonu	Sirui	4	2	6
2	2022/11/16	Batumanu	Batuu	3	2	5
3	2022/10/18	Leimia Leten	Leulara	9	1	10
4	2022/10/18	Leimia Leten	Raebou	6	1	7
5	2022/10/25	Leimea Leten	Buibaro	2	2	4
6	2022/10/28	Obulo	Laku Ubu	4	3	7
7	2022/10/27	Obulo	Biliubu	1	1	2
総計				29	12	41

<フォローアップ研修 2 回目>

収入と支出の記録について帳簿を確認したところ、正しく記帳し、グループ資金の管理を行えるようになっていたことがわかったので、グループ内におけるより効果的なコミュニケーション方法と透明性の向上について話し合った。

<参加者>

No	日程	村落(Suco)	集落(Aldeia)	参加者		
				女性	男性	合計
1	2022/11/24	Laubonu	Sirui	2	2	4
2	2022/11/24	Batumanu	Batuu	3	2	5
3	2022/11/22	Leimia Leten	Leulara	4	1	5
4	2022/11/22	Leimia Leten	Raebou	4	3	7
5	2022/11/16	Leimea Leten	Buibaro	2	2	4
6	2022/11/23	Obulo	Laku Ubu	3	2	5
7	2022/11/25	Obulo	Biliubu	2	2	4
総計				20	14	34

活動 2.6 : 事業終了後のフォローアップ計画策定の住民参加型ワークショップの開催

事業終了後も持続的に農業用水設備が利用されてゆくように、1 年次に支援を開始した 5 集落を対象に、1 月から 2 月にかけて各集落 3 日間をかけて同ワークショップを開催した。

具体的には、農民グループメンバー以外に地域のリーダー等を含めた地域住民も参加し、災害リスクマップ、過去の災害分析、インパクト分析、脆弱性分析、関係者分析などの手法を用いて、地域の災害リスクを分析するとともに、農業用水設備造成以降、災害リスクに変化があったかどうかについても確認しあった。主な災害リスクとしては、地すべり、洪水、水源の枯渇などがあげられた。災害が生計活動や人命に与える影響などを話し合い、分析結果をもとに、アクションプランを立てた。具体的には、植林、野菜栽培、早期警報を出す、側溝を掘るなど道の整備、水源保全と給水設備の維持管理などがアクションプランに含まれた。

<参加者>

No	日程	村落(Suco)	集落(Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2023/1/16-18	Laubonu	Biabote	9	3	12	8	32
2	2023/2/6-8	Batumanu	Mutubau	4	4	1	4	13
3	2023/1/23-25	Leimea Leten	Orbeto	4	3	17	23	47

4	2023/1/11-13	Leimea Leten	Raelia	7	6	16	5	34
5	2023/1/20-22	Obulo	Suriubu	7	4	10	14	35
	総計			31	20	56	54	161

(ウ) その他の活動

活動 3.1：郡、村落、集落村レベルの地方政府を対象とした事業開始に向けた理解促進活動

● 村落、集落での理解促進活動

2 年次から支援を開始した 7 集落において、関係者への事業に関する理解と協力関係を促進する目的で活動始動前の 2 月から 3 月にかけて団体説明と事業説明を行った。さらに、本事業のスタッフおよび関係者が順守すべき PSEAH (性的搾取・虐待・ハラスメントからの保護)、児童虐待、汚職の禁止について、参加者に説明するとともに、該当する行為を見聞きする、または経験した場合に通報することのできるホットラインの設置と、参加者から事業に関する意見やクレームを受け付けるフィードバックの仕組みについて広く周知することに努めた。併せて、ジェンダーに基づく暴力についての啓発ビデオを上映した。

<参加者>

No	日程	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FG メンバー		FG メンバー以外		合計
				女性	男性	女性	男性	
1	2022/2/24	Batumanu	Biliubu	7	7	8	17	39
2	2022/2/17	Obulo	Leulara	8	8	13	21	50
3	2022/2/19	Leimea Leten	Raebou	16	8	11	16	51
4	2022/03/17	Obulo	Sirui	10	6	10	9	35
5	2022/2/21	Leimia Leten	Laku Ubu	3	7	18	22	50
6	2022/2/18	Leimia Leten	Buibaro	11	7	15	23	56
7	2022/2/23	Laubonu	Batuu	5	8	16	18	47
	総計			60	51	91	126	328

● アッサベ郡での理解促進活動

集落レベルでの理解促進活動に加え、2 年次ではアッサベ郡レベルでも同様の場を 3 月 9 日に設け 23 人 (女性 5 人、男性 18 人) が参加した。同理解促進活動では、郡のアドミニストレーター代理、1 年次対象 5 集落の村長および対象地域の近隣小学校校長と学校給食プログラム・コーディネーター等を対象に、1 年次から支援する 5 つの農民グループのリーダーや農業普及員等も招待し、1 年次での活動の成果と 2 年次の活動計画を発表した。1 年次では収穫した野菜を近在の学校に給食用食材として販売し収入に繋げている農民グループの事例もあり、学校給食プログラム・コーディネーターからは、学校給食プログラムと農民グループとの連携の拡大について期待が寄せられた。

活動 3.2 定期振り返り会議

2 年次終了時の 2023 年 2 月には、1 年次支援開始組の 5 農民グループを含めた全 12 農民グループメンバーと集落リーダー等の関係者で、農民グループ活動全般について振り返りを行った。また、3 年次で本格的に着手するグループ間のネットワーク強化を見据え、本振り返り会議は 12 集落単位ではなく 4 村落単位で実施し、異なる農民グループが互いに経験を共有し相互に学び合える場とした。

会議では、植えた野菜が害虫の被害にあった、積極的に活動に参加しないメンバーがいるなどどのグループからも主な問題点としてあげられた。女性の意思決定への参加については、勇気をもって意見を言う人も出てきたが、機会があっても発言しない人もいるとの意見が出された。事業スタッフに対しては、スタッフによる個別の農地訪問・指導を更に増やして欲しい、収穫した野菜が売れそうな市場を探して欲しいなどの要望があげられた。3 年次も、事業スタッフが頻繁に農民グループを訪問し、グループごとのニーズに応じた指導を継続する。市場については、地元市場での販売に加え、事業終了後を見据えディリでも販売機会があるかどうか模索する。

<参加者>

No	日程		FG メンバー	FG メンバー以外	合計
----	----	--	---------	-----------	----

			村落 (Suco)	女性	男性	女性	男性	
	1	2023/2/9	Batumanu	9	8	2	7	26
	2	2023/2/10	Laubonu	9	4	7	9	29
	3	2023/2/8	Leimea Leten	11	9	4	9	33
	4	2023/2/10	Obulo	5	6	5	10	26
		総計		34	27	18	35	114

(3) 達成された成果

1) 2 年次で達成された成果

(ア) 期待される成果 1 :
農業用水設備を整備することで、農業活動に不可欠な水が得られるようになり、栽培面積が広がるとともに、対象農民グループの女性メンバーの水汲みの負担が軽減する。

●成果 1 を測る指標

1.1 : 農業用水設備が計画通りに整備される。

2 年次の指標	達成状況
対象 7 集落にて 7 基の農業用水設備が整備される。	・対象 7 集落にて 7 基の農業用水設備が整備された。 ・具体的には、対象 7 集落にて、計 166 人(うち女性 79 人) (2 年次終了時のメンバー数) から成る 7 つの農民グループの共同農地に水源から取水する設備を造成し(水源からのパイプ敷設とタンクの設置)、計 787.5 m ² の野菜畑に点滴灌漑を設置した。同設備によって乾季中でも野菜栽培を可能とする環境が整備できた。

1.2 : 対象農民グループ全体で、野菜栽培可能面積(野菜の苗床面積)が 25%増加する。

2 年次の指標	達成状況
1 年次造成組の 5 農民グループで 1 年次終了時点より 25%増加する。	・野菜栽培可能面積は 83%と大幅増となった(562.5 m ² 拡大)。大幅増の結果、将来的に野菜の収量、ひいては販売も大きく伸びてゆくことが期待される。

1.3 : 対象農民グループの女性メンバー141 人の水汲みに費やす時間が事業実施前より 50%軽減する。

2 年次の指標	達成状況
1 年次造成組の 5 農民グループの女性メンバーで 50%軽減する。	・給水設備と点滴灌漑設備を整備したことにより、現在水汲みに費やす時間は全くなかった。

(イ) 期待される成果 2
整備された農業用水設備を維持管理できるようにコミュニティと女性メンバーを含む農民グループの能力が強化される。

●成果 2 を測る指標

2.1 : 各回の維持管理研修及び定例会合への各設備維持管理委員会 (FMC) メンバーの参加率が 85%以上となる。

2 年次の指標	達成状況
対象 12 集落の FMC メンバーの参加率が 85%以上となる。	・1 年次での FMC メンバーの参加率の低さから、2 年次では、FMC メンバーが参加できない場合は、各農民グループ内の FMC メンバー6 名に参加者を固定するのではなく、同じ農民グループ内の他のメンバーの代理参加も認めることとした。よって、参加者数については常に 6 名以上の参加が認められ、100%の参加率となった。しかしながら、FMC メンバーに限った場合、各 12 集落の FMC メンバーの平均参加率は 64%と目

		標値を下回った。																																										
		<table><tr><th>村落 (Suco)</th><th>集落 (Aldeia)</th><th>農民グループ メンバーの 平均参加人数</th></tr><tr><td>Batumanu</td><td>Batuu</td><td>8.8</td></tr><tr><td>Batumanu</td><td>Mutubau</td><td>9.3</td></tr><tr><td>Laubonu</td><td>Biabote</td><td>14.2</td></tr><tr><td>Laubonu</td><td>Sirui</td><td>10.0</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Buibaro</td><td>12.5</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Leulara</td><td>17.5</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Orbeto</td><td>9.3</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Raebou</td><td>13.0</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Raelia</td><td>11.5</td></tr><tr><td>Obulo</td><td>Biliubu</td><td>7.5</td></tr><tr><td>Obulo</td><td>Laku Ubu</td><td>10.5</td></tr><tr><td>Obulo</td><td>Suriubu</td><td>7.5</td></tr><tr><td colspan="2">全体平均</td><td>11.4</td></tr></table>	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	農民グループ メンバーの 平均参加人数	Batumanu	Batuu	8.8	Batumanu	Mutubau	9.3	Laubonu	Biabote	14.2	Laubonu	Sirui	10.0	Leimea Leten	Buibaro	12.5	Leimea Leten	Leulara	17.5	Leimea Leten	Orbeto	9.3	Leimea Leten	Raebou	13.0	Leimea Leten	Raelia	11.5	Obulo	Biliubu	7.5	Obulo	Laku Ubu	10.5	Obulo	Suriubu	7.5	全体平均		11.4
村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	農民グループ メンバーの 平均参加人数																																										
Batumanu	Batuu	8.8																																										
Batumanu	Mutubau	9.3																																										
Laubonu	Biabote	14.2																																										
Laubonu	Sirui	10.0																																										
Leimea Leten	Buibaro	12.5																																										
Leimea Leten	Leulara	17.5																																										
Leimea Leten	Orbeto	9.3																																										
Leimea Leten	Raebou	13.0																																										
Leimea Leten	Raelia	11.5																																										
Obulo	Biliubu	7.5																																										
Obulo	Laku Ubu	10.5																																										
Obulo	Suriubu	7.5																																										
全体平均		11.4																																										
		<table><tr><th>村落 (Suco)</th><th>集落 (Aldeia)</th><th>FMC メンバーの 平均参加率</th></tr><tr><td>Batumanu</td><td>Batuu</td><td>81%</td></tr><tr><td>Batumanu</td><td>Mutubau</td><td>39%</td></tr><tr><td>Laubonu</td><td>Biabote</td><td>64%</td></tr><tr><td>Laubonu</td><td>Sirui</td><td>64%</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Buibaro</td><td>67%</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Leulara</td><td>36%</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Orbeto</td><td>42%</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Raebou</td><td>53%</td></tr><tr><td>Leimea Leten</td><td>Raelia</td><td>56%</td></tr><tr><td>Obulo</td><td>Biliubu</td><td>42%</td></tr><tr><td>Obulo</td><td>Laku Ubu</td><td>36%</td></tr><tr><td>Obulo</td><td>Suriubu</td><td>42%</td></tr><tr><td colspan="2">全体平均</td><td>64%</td></tr></table>	村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FMC メンバーの 平均参加率	Batumanu	Batuu	81%	Batumanu	Mutubau	39%	Laubonu	Biabote	64%	Laubonu	Sirui	64%	Leimea Leten	Buibaro	67%	Leimea Leten	Leulara	36%	Leimea Leten	Orbeto	42%	Leimea Leten	Raebou	53%	Leimea Leten	Raelia	56%	Obulo	Biliubu	42%	Obulo	Laku Ubu	36%	Obulo	Suriubu	42%	全体平均		64%
村落 (Suco)	集落 (Aldeia)	FMC メンバーの 平均参加率																																										
Batumanu	Batuu	81%																																										
Batumanu	Mutubau	39%																																										
Laubonu	Biabote	64%																																										
Laubonu	Sirui	64%																																										
Leimea Leten	Buibaro	67%																																										
Leimea Leten	Leulara	36%																																										
Leimea Leten	Orbeto	42%																																										
Leimea Leten	Raebou	53%																																										
Leimea Leten	Raelia	56%																																										
Obulo	Biliubu	42%																																										
Obulo	Laku Ubu	36%																																										
Obulo	Suriubu	42%																																										
全体平均		64%																																										
		・ 目標値を下回った原因： FMC メンバーが会合や研修に参加しない理由を調べたところ、以下のような背景があることがわかった。 － 収穫した野菜を販売し収入を得た場合の収益のメンバー間での分配に関する不平。 － 資金管理に関する不信感。 － 他の生計活動(政府実施の道路の補修や清掃に1日5ドルで人々を雇うプロジェクトに参加、または、個人の畑仕事などでの日雇い活動に従事)や集落の伝統行事を優先。 ・ 今後の対応： 代理参加を引き続き認めつつも、FMC メンバーの参加率をあげるため、以下に取り組む。 － 不参加が続く FMC メンバーとは事業スタッフが個別に話し合い、グループ内の問題が参加の障壁となっているのであれば、集落長や村長にも協力しても																																										

		らい、その解決を手伝う。 - 特にグループ内の問題として、農民グループの資金管理の不透明さが課題になっているグループもあり、グループリーダーには、農民グループの資金管理の透明性を高め、説明責任を果たすよう、定例会合、振り返り研修、個別フォローアップで重点的に働きかける。 - 個人的な理由で参加できない場合は、農民グループで話し合いの場を持ち FMC メンバーの交代も含めた対策を立ててもらう。				
2.2：各設備維持管理委員会 (FMC) で規定が策定される。						
	<table><tr><th>2 年次の指標</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>対象 7 集落の各 FMC で規定が策定される。</td><td> ・ 7 集落の各 FMC で規定が策定された。 ・ 具体的には、7 つの対象農民グループメンバーの中から計 42 名 (各グループ 6 名) を委員会メンバーとして選定し、以降、委員会メンバーを含む農民グループメンバーを対象とした様々な能力強化研修と定例会合を経て、集大成として 2 年次終了時まで規定を策定した。これにより、設備を維持するための体制が整った。策定した規定については、運用する中での気づきを反映し最終年度の 3 年次で改訂を計画している。 </td></tr></table>	2 年次の指標	達成状況	対象 7 集落の各 FMC で規定が策定される。	・ 7 集落の各 FMC で規定が策定された。 ・ 具体的には、7 つの対象農民グループメンバーの中から計 42 名 (各グループ 6 名) を委員会メンバーとして選定し、以降、委員会メンバーを含む農民グループメンバーを対象とした様々な能力強化研修と定例会合を経て、集大成として 2 年次終了時まで規定を策定した。これにより、設備を維持するための体制が整った。策定した規定については、運用する中での気づきを反映し最終年度の 3 年次で改訂を計画している。	
2 年次の指標	達成状況					
対象 7 集落の各 FMC で規定が策定される。	・ 7 集落の各 FMC で規定が策定された。 ・ 具体的には、7 つの対象農民グループメンバーの中から計 42 名 (各グループ 6 名) を委員会メンバーとして選定し、以降、委員会メンバーを含む農民グループメンバーを対象とした様々な能力強化研修と定例会合を経て、集大成として 2 年次終了時まで規定を策定した。これにより、設備を維持するための体制が整った。策定した規定については、運用する中での気づきを反映し最終年度の 3 年次で改訂を計画している。					
2.3：フォローアップ計画策定のワークショップへの参加者の 50%が女性である。						
	<table><tr><th>2 年次の指標</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>1 年次造成組の 5 集落で女性の参加者が参加者全体の 50%。</td><td> ・ 女性の参加は 54%であった。 </td></tr></table>	2 年次の指標	達成状況	1 年次造成組の 5 集落で女性の参加者が参加者全体の 50%。	・ 女性の参加は 54%であった。	
2 年次の指標	達成状況					
1 年次造成組の 5 集落で女性の参加者が参加者全体の 50%。	・ 女性の参加は 54%であった。					
2.4：対象 12 集落でフォローアップ計画が策定される。						
	<table><tr><th>2 年次の指標</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>1 年次造成組の 5 集落でフォローアップ計画が策定される。</td><td> ・ 5 集落で、事業終了後も地域で災害リスクを軽減し農業用水設備を長期にわたり利用してゆくための計画が策定された。 </td></tr></table>	2 年次の指標	達成状況	1 年次造成組の 5 集落でフォローアップ計画が策定される。	・ 5 集落で、事業終了後も地域で災害リスクを軽減し農業用水設備を長期にわたり利用してゆくための計画が策定された。	
2 年次の指標	達成状況					
1 年次造成組の 5 集落でフォローアップ計画が策定される。	・ 5 集落で、事業終了後も地域で災害リスクを軽減し農業用水設備を長期にわたり利用してゆくための計画が策定された。					
2.6：定例会合等の意思決定の場に参加する女性の維持管理委員会メンバーおよび他の農民グループの女性メンバーの 50%以上が自分の意見を発言できるようになる。						
	<table><tr><th>2 年次の指標</th><th>達成状況</th></tr><tr><td>1 年次造成組の 5 グループの女性参加者の 50%以上。</td><td> ・ 参加の度合いを 5 段階 (1. 参加が認められない、2. 参加する、3. 発言する、4. 発言を尊重される、5. 意思決定に参加する) に分け、1 年次組の対象者がベースライン時と 2 年次終了時でどの段階にいるかを比較した。結果、ベースラインでは、82%の女性が会合に出席するだけの 2 番目以下のステージで、18%の女性が会合で発言する 3 番目のステージであったのが、2023 年 4 月時点でのモニタリングでは、2 番目のステージ以下は 57%、3～4 番目のステージが 21%、意思決定に参加する 5 番目のステージ以上が 21%と上昇した。2 年次終了時点で 50%以上の目標値には達成できなかったものの、42%の女性が会合で発言するステージ 3 以上であることから、ベースライン時より多くの女性が積極的に会合で発言している状況であることがわかった。3 年次終了に向 </td></tr></table>	2 年次の指標	達成状況	1 年次造成組の 5 グループの女性参加者の 50%以上。	・ 参加の度合いを 5 段階 (1. 参加が認められない、2. 参加する、3. 発言する、4. 発言を尊重される、5. 意思決定に参加する) に分け、1 年次組の対象者がベースライン時と 2 年次終了時でどの段階にいるかを比較した。結果、ベースラインでは、82%の女性が会合に出席するだけの 2 番目以下のステージで、18%の女性が会合で発言する 3 番目のステージであったのが、2023 年 4 月時点でのモニタリングでは、2 番目のステージ以下は 57%、3～4 番目のステージが 21%、意思決定に参加する 5 番目のステージ以上が 21%と上昇した。2 年次終了時点で 50%以上の目標値には達成できなかったものの、42%の女性が会合で発言するステージ 3 以上であることから、ベースライン時より多くの女性が積極的に会合で発言している状況であることがわかった。3 年次終了に向	
2 年次の指標	達成状況					
1 年次造成組の 5 グループの女性参加者の 50%以上。	・ 参加の度合いを 5 段階 (1. 参加が認められない、2. 参加する、3. 発言する、4. 発言を尊重される、5. 意思決定に参加する) に分け、1 年次組の対象者がベースライン時と 2 年次終了時でどの段階にいるかを比較した。結果、ベースラインでは、82%の女性が会合に出席するだけの 2 番目以下のステージで、18%の女性が会合で発言する 3 番目のステージであったのが、2023 年 4 月時点でのモニタリングでは、2 番目のステージ以下は 57%、3～4 番目のステージが 21%、意思決定に参加する 5 番目のステージ以上が 21%と上昇した。2 年次終了時点で 50%以上の目標値には達成できなかったものの、42%の女性が会合で発言するステージ 3 以上であることから、ベースライン時より多くの女性が積極的に会合で発言している状況であることがわかった。3 年次終了に向					

		け、確実に目標値を上回るように、女性が会合で積極的に発言し、意思決定に参加できるように、働きかけを継続する。						
2)「持続可能な開発目標(SDGs)」に対する成果 SDGs の下記の目標およびターゲットに寄与する成果を発現できた。 成果 1(農業用水設備を整備することで、水へのアクセスが向上する。)においては、 目標 2： 飢餓を終わらせ、食糧安全保障及び栄養改善を実現し、持続可能な農業を促進する。 2.4 2030 年までに、生産性を向上させ、生産量を増やし、生態系を維持し、気候変動や極端な気象現象、干ばつ、洪水およびその他の災害に対する適応能力を向上させ、漸進的に土地と土壌の質を改善させるような、持続可能な食糧生産システムを確保し、強靱（レジリエント）な農業を実践する。 成果 2(整備された農業用水設備を維持管理できるように女性メンバーを含む農民グループの能力が強化される。)においては、 目標 5： ジェンダー平等を達成し、すべての女性および女児の能力強化を行う。 5.1 あらゆる場所におけるすべての女性および女児に対するあらゆる形態の差別を撤廃する。 5.5 政治、経済、公共分野でのあらゆるレベルの意思決定において、完全かつ効果的な女性の参画および平等なリーダーシップの機会を確保する。								
<table><tr><th>当該目標</th><th>当該目標に寄与した成果</th></tr><tr><td>目標 2/ターゲット 2.4</td><td> ・ 乾季でも野菜の安定的な栽培が可能となるように、2 年次対象の 7 農民グループの共同農地に農業用水設備を設置するとともに、設備の維持管理研修を行い、野菜を通年で栽培できる環境を整えた。将来的には生産量の向上に繋がることが期待される。 ・ 農業用水設備の設置後は、7 農民グループ対象に取水・土壌管理研修を行い、農地を適切に管理するための農民の能力を高めることができ、将来的にはレジリエントな農業の実践に繋がることが期待される。 </td></tr><tr><td>目標 5/ターゲット 5.1 および 5.5</td><td> ・ 農業用水設備の維持管理委員会のメンバーの比率を両ジェンダーに割当てするクォータ制を実践し、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・ 維持管理委員会の規定の策定にあたっては、ジェンダー分析ワークショップを行い、ジェンダー平等の視点を規定に反映でき、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・ 公の会合等の場で意見を発言できるように女性農民メンバーを対象にパブリックスピーキング研修を行うとともに、設備維持管理委員会の定例会合の場への女性メンバーの積極的な参加を促すことで、女性の意思決定の場への参画とリーダーシップを発揮する機会の確保の面で寄与した。 ・ 研修やワークショップや会合でより多くの女性の参加を促し続けた結果、メンバー間では、女性の参加が 53%と、男性の 47%を上回った。 </td></tr></table>			当該目標	当該目標に寄与した成果	目標 2/ターゲット 2.4	・ 乾季でも野菜の安定的な栽培が可能となるように、2 年次対象の 7 農民グループの共同農地に農業用水設備を設置するとともに、設備の維持管理研修を行い、野菜を通年で栽培できる環境を整えた。将来的には生産量の向上に繋がることが期待される。 ・ 農業用水設備の設置後は、7 農民グループ対象に取水・土壌管理研修を行い、農地を適切に管理するための農民の能力を高めることができ、将来的にはレジリエントな農業の実践に繋がることが期待される。	目標 5/ターゲット 5.1 および 5.5	・ 農業用水設備の維持管理委員会のメンバーの比率を両ジェンダーに割当てするクォータ制を実践し、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・ 維持管理委員会の規定の策定にあたっては、ジェンダー分析ワークショップを行い、ジェンダー平等の視点を規定に反映でき、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・ 公の会合等の場で意見を発言できるように女性農民メンバーを対象にパブリックスピーキング研修を行うとともに、設備維持管理委員会の定例会合の場への女性メンバーの積極的な参加を促すことで、女性の意思決定の場への参画とリーダーシップを発揮する機会の確保の面で寄与した。 ・ 研修やワークショップや会合でより多くの女性の参加を促し続けた結果、メンバー間では、女性の参加が 53%と、男性の 47%を上回った。
当該目標	当該目標に寄与した成果							
目標 2/ターゲット 2.4	・ 乾季でも野菜の安定的な栽培が可能となるように、2 年次対象の 7 農民グループの共同農地に農業用水設備を設置するとともに、設備の維持管理研修を行い、野菜を通年で栽培できる環境を整えた。将来的には生産量の向上に繋がることが期待される。 ・ 農業用水設備の設置後は、7 農民グループ対象に取水・土壌管理研修を行い、農地を適切に管理するための農民の能力を高めることができ、将来的にはレジリエントな農業の実践に繋がることが期待される。							
目標 5/ターゲット 5.1 および 5.5	・ 農業用水設備の維持管理委員会のメンバーの比率を両ジェンダーに割当てするクォータ制を実践し、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・ 維持管理委員会の規定の策定にあたっては、ジェンダー分析ワークショップを行い、ジェンダー平等の視点を規定に反映でき、対象コミュニティにおけるジェンダー平等の促進に寄与した。 ・ 公の会合等の場で意見を発言できるように女性農民メンバーを対象にパブリックスピーキング研修を行うとともに、設備維持管理委員会の定例会合の場への女性メンバーの積極的な参加を促すことで、女性の意思決定の場への参画とリーダーシップを発揮する機会の確保の面で寄与した。 ・ 研修やワークショップや会合でより多くの女性の参加を促し続けた結果、メンバー間では、女性の参加が 53%と、男性の 47%を上回った。							
3)課題と対応 ● 天水に頼った自給自足農業から園芸野菜農業への意識の転換 これまで、雨水に頼った自給自足型の農業を行ってきた農民にとって、年に一度雨季の間だけ、イモ類、豆類、トウモロコシなどの穀物類を中心に栽培するという周期で生活をしてきたため、数か月ごとに苗を作り、肥料をやり育て、収穫するという新たな野菜作りのサイクルを理解し、実践していくことに慣れるためには、よりきめ細かいフォローアップ指導が必要であった。定期的に野菜栽培を行い販売してゆくために、定例会合で作物カレンダーの作成を指導し、また、事業スタッフが頻繁に農民グループを訪問し個別指導することにより、野菜栽培の								

	サイクルを理解し、計画的に行えるよう手助けした。今後も、農民グループだけで継続できるよう、3年次でサイクルの定着を図る。 ●修繕費の管理 研修を通して、記帳の仕方、予算の立て方などを指導したが、その後のモニタリングとフォローアップ研修の結果、ほとんどのグループで、帳簿に正しく数字を記入することが課題であることがわかった。事業終了後も透明性を確保しながら、活動を継続するためには、資金管理を自分たちで行えるようになることが最重要課題ともいえる。3年次では、資金管理にかかるグループの能力強化を主な目的にモニタリング・オフィサーを新に投入し、定期的に農民グループを訪問し個々の能力に応じたきめの細かいサポートができる体制を敷く。 ●伝統文化の尊重と事業実施のバランス プロジェクト対象地域は、伝統的な文化が根強く残っており、地域における冠婚葬祭などの行事が年間を通して数多くある。このため、新しい知識や技術の習得には関心が高く、活動に参加したいと考えている人々も多くいるが、実際に研修やワークショップを開催する段になると、集落によっては、伝統行事を優先するところもあり、日程調整が非常に困難であった。3年次も引き続き、集落リーダーや農民グループリーダーやメンバーに働きかけ積極的な参加を促していくとともに、地域の伝統行事を尊重し、活動の実施スケジュールを共有するとともに、実施スケジュールや実施方法を臨機応変に変更する等、可能な範囲で柔軟に対応してゆく。 ●農民グループ内の問題 グループの資金管理についての説明責任の欠如、不公平感に起因するメンバー間の不和などが指摘され、そのために農民グループ活動の参加に消極的になる、また、野菜栽培から期待していたような利益が得られないと、より多くの現金収入を得られる活動や地域の伝統行事などへの参加を優先させるなど、グループによっては活動に積極的に参加しないメンバーの存在が課題となっている。一方で、積極的に参加するメンバーが多く、メンバー同士協力的であるグループでは、野菜の販売からメンバーが直接収入を得ている、もしくは、十分に自家消費ができていることから、収量をいかに上げてゆけるかが参加の鍵であることがうかがえた。よって、販売や自家消費できる量や質の野菜を収穫できるように事業スタッフによる個別のフォローアップ指導を強化し、野菜栽培技術の向上とその定着を図る。併せて、グループ内での不公平感や不信感を払拭するため、メンバーの再編、リーダーシップの強化、アカウンタビリティの向上を図り、そして、積極的に参加したメンバーが野菜栽培を通して得られる利益を実感できるよう、利益分配の仕組み作りに取り組んでゆく。
(4) 持続発展性	(1) 収穫した野菜の販売 保守修繕に必要な知識や技術、修繕費の資金管理、定例会合での問題解決等、造成した農業用水設備を維持管理できるように、農民グループを対象に様々な能力強化研修を実施してきた。これらに加え、栽培した野菜を自発的に販売し収入に繋げる農民グループも現れてきた。1年次から活動を開始した農民グループおよび2年次に開始したいくつかのグループでは、収穫した野菜を地元の市場、学校給食、地元住民などに販売して収入を得て、将来の設備維持管理や活動の継続のためにグループで貯蓄している。野菜の販売はグループの自発的な取り組みであるが、農民グループの活動が経済的に持続可能であるかどうか考慮することも必要であると考え、2年次では、野菜の販売収入を増やすためにカリフラワーやブロッコリーなど、販売単価の高い野菜が農民グループの農地で栽培が可能か試みた。結果、成果のあったグループもあった。よって、3年次では、農民グループの野菜販売の取り組みを更にバックアップしてゆく。今後、収益性の高い作物の栽培や販売に取り組むことができれば、農民グループメンバーの収入向上に繋がり、参加農民のモチベーションを高めることになり、ひいては、活動の継続に寄与すると思料する。 (2) 適切な技術の普及と定着 農業省の方針でもあり、かつ環境にも配慮して、有機農業の技術指導に力を入れた。当プロジェクトに参加する以前は、化学肥料や農薬を使用していた農民たちであったが、研修で有機肥料や有機農薬の作り方を学び、さらに、事業スタッフによる個別のフォローアップ指導を通して、コンポストや腐葉土を利用しながら土を改良していく方法、施肥や有機農薬の使い方などを学んだ。グループ農地で学んだ環境に配慮した農業技術を今後は、各個人の農地でも実践してゆくことが期待される。有機農業は、環境への負荷が少なく、土壌の質を改善することができるため、長期的に見て収量が低下することがなく、持続可能な農業生産を実現することができる。さらに、現金収入の少

	ない農民にとっての直接的な利点としては、化学肥料や農薬を購入する必要がなくなるため、より持続可能である。 (3) コミュニティ側の参加意識 本事業では農民グループだけでなく地域住民の参加意識の醸成が農業用水設備の持続的な有効利用には不可欠であるとの考えに立脚し、コミュニティ側関係者の参加と協力を引き出すために、地域住民にも裨益する取り組みに力を入れてきた。その一つが、生活用水として貯水タンクの水を地域住民に開放することであり、定例会合の場を利用した生活に関する様々な情報の発信である。定例会合への地域住民の参加の割合からも参加意識の醸成に寄与していることがうかがえる。3 年次でも、定例会合を、生活向上に関する情報の発信と共有、そしてジェンダー平等が生活の向上にも繋がることの啓発の場として機能させ、参加のモチベーションを高めてゆく。
--	---